

(仮訳)

## 金融安定理事会による

「クロスボーダー送金の目標達成に向けた年次進捗報告書：2023年 KPI 報告書」

### 要旨

2020年、G20は、FSBがBIS決済・市場インフラ委員会(CPMI)ならびに関係する他の国際機関および基準設定機関との協働のもとで策定したロードマップを通じ、クロスボーダー送金の改善を優先取組事項とした。同ロードマップは、クロスボーダー送金をより速く、より安く、よりアクセスしやすく、より透明にすることを企図している。2021年、G20は、3つのマーケットセグメント(ホールセール、リテール、レミッタンス)におけるこれら4つの課題に対処するため、グローバルな定量目標を承認した。定量目標は、ロードマップの野心を定義付け、結果責任を定めるとともに、所期の改善に向けた共通ビジョンを示すものとなっている。

FSBは、定量目標を実効的なものとするため、目標の達成状況、進捗した分野および課題が残る分野を直接・間接的に計測する重要業績評価指標(Key Performance Indicators、KPI)を策定した。ホールセールとリテールを区分けするための閾値は、10万米ドルとされた(詳細は第3章を参照)。3つのマーケットセグメントいずれに関しても、グローバルにクロスボーダー送金のデータを捕捉できる包括的なデータソースは存在しない。しかしながら、FSBは、代表的な一連のKPI(2023年3月末時点)を算出するために本報告書で利用するデータソースを特定した。今後、こうしたデータの年次のアップデートを通じて、クロスボーダー送金の目標達成に向けた進捗度を測るために有益な概算を得ることが可能となる。もっとも、適切な既存データが存在しないデータギャップの問題は残存している。FSBは、利用可能なデータを改善する取組みや、可能な部分についてはデータギャップを埋める取組みを継続する方針である。

全体として、グローバルレベルで見ると、全てのマーケットセグメントにおいて目標を達成するためには、ロードマップのもとでの進捗が必要であることをKPIは示している。しかしながら、グローバルレベルのKPIは多様かつ複雑な決済エコシステムの全体像を伝えることはできないことから、どこに、どの程度の課題が残存しているかに関してより深い理解を促進すべく、本報告書では、グローバルなKPIのより粒度の細かい内訳を可能な限り提示している。これは、課題の性質や、課題に対処するために取り得る方法に関する、官民での議論を促していくうえで有益となる。

本報告書で鍵となるテーマは、全てのマーケットセグメントにおいて、地域間でユーザーエクスペリエンスが大きく異なるということである。例えば、いくつかの、典型的には低所得の地域を含む送金は、全てのマーケットセグメントにおいて、コストやスピードに関する目標から最も遠い傾向がある。しかしながら、こうした状況がどの程度当てはまるかについては、当該地域が送金側なのか受取側なのかによって異なる。さらに、

リテールでは、外国為替コストが総コストの最も大きな割合を占めているように見えるが、これがどの程度当てはまるかは、地域・ユースケース間で異なる。一方、レミッタンスでは、他の手数料が外国為替コストよりも大きい傾向にある。

アクセスに関する目標についても、同様に地域毎のばらつきがみられる。アクセスに関する目標の代理変数となる KPI は、グローバルにみると個人による口座保有率が相対的に高いことを示している一方、地域間では口座の保有率や種類（金融機関かモバイルマネーか）に差異が存在する。また、口座保有に要するコストや手近なサービスの利用可能性の欠如といった課題が、多くの低所得国で口座保有の障壁となっている。

KPI の設定にあたり、FSB にとって重要なゴールは、課題の性質、課題に対処するために取り得る方法や、KPI のデータが全体の市場トレンドを代表するものであるかどうかについて、ロードマップに関係する官民のステークホルダー間での対話を促すことである。こうした議論の成果として、ロードマップのもとで設定されたアクションは、目標達成に向けたロードマップの焦点をよりはっきりさせるため、必要に応じて、今後、より洗練され、的が絞られたものとなるかもしれない。FSB は、こうした課題について、民間セクターと対話を継続することを期待している。

## 定量的なハイライト

以下では、本報告書における分析から、各マーケットセグメントにおけるいくつかのデータのハイライトを示す（全 KPI は報告書本文に記載）。

### ホールセール<sup>1</sup>

- SWIFT ネットワーク上におけるコルレス銀行間の送金（イン・フライト）処理時間を切り出してみると、ホールセール送金のうち、送金銀行から受取銀行に着金するまでの時間が 1 時間以内および 1 日以内の送金は、それぞれ、89%、99%となっている。
- しかしながら、最終的な受取銀行側ではより長い時間を要している。イン・フライトの処理に要する時間に加え、受取銀行が資金を受領してからの時間（SWIFT ネットワークを離れてからの時間）をみると、ホールセール送金のうち 60%のみが 1 時間以内に顧客口座に入金されている。この割合は、1 日以内に顧客口座に入金される送金では 93%に達する。
- 全体の結果としては、グローバルにみると、ホールセール送金のうち 54%が、送金銀行から最終的な顧客口座に 1 時間以内に入金され、93%が 1 日以内に入金されている。これらの所要時間のほとんどは、受取銀行が資金を受領してから最終的な顧

---

<sup>1</sup> ホールセールではコストに関する目標がないことから、今回の分析ではホールセール送金のコストに関するデータは収集していない。

客口座に入金されるまでの時間となっている。

- 2023 年第一四半期をみると、世界の 92%の国と地域において、3 つ以上の金融機関が SWIFT ネットワークを通じてクロスボーダー送金を行っている。FSB は、ある法域におけるそれぞれの国内送金サービス事業者が少なくとも一つのホールセルのクロスボーダー送金またはその受取を行う選択肢を有しているか否かを推計するため、この計測値をアクセスに関する目標の代理変数として用いる。

## リテール<sup>2</sup>

- リテール送金における総コストのグローバル平均は、全てのユースケースで、送金額に対して 1%という目標を上回っている。B2B の 1.5%から、P2P の 2.5%まで幅がある。
- G20 の目標では、二国間のいかなるコリドー（送金経路）でもコストが 3%を上回らないことを目指している。およそ 25%のコリドーの平均コストがこの目標を上回っている。
- 全ユースケースにおける全ての受取側の地域<sup>3</sup>を相手方としてみた場合、サブサハラ・アフリカ地域とラテンアメリカ・カリブ海地域からのリテール送金に要するコストが最も高くなっており、平均送金総コストはそれぞれ送金額に対して 3.9%、3.3%となっている。
- 全ユースケースにおける全ての送金側の地域を相手方としてみた場合、サブサハラ・アフリカ地域と中東・北アフリカ地域に向けたリテール送金に要するコストが最も高くなっており、平均送金総コストはそれぞれ送金額に対して 2.5%、2.4%となっている。
- グローバルにみると、地域間で大きな差があるが、全てのユースケースにおいて外国為替コストが総コストの過半を占めている。平均してみると、P2P の 60%から P2B の 97%まで幅がある。
- グローバルにみると、地域・ユースケース間で大きな差があるが、1 時間以内に受取人に着金し引出可能となるリテール送金サービスの割合は 42%（目標は 75%）、1 営業日以内の割合は 76%（目標は 100%）となっている。
- グローバルにみると、クロスボーダー送金のコストおよびスピードについて透明性を確保している送金サービスの平均的な割合は、100%の送金事業者が全ての情報

---

<sup>2</sup> リテール送金のユースケースには、事業者間（B2B）、事業者→個人（B2P）、個人→事業者（P2B）、レミッタンスを除く個人間（P2P）が含まれる。

<sup>3</sup> 本報告書との関係で利用されている地域の定義の詳細は、セクション 2.3 に記載されている。個別の国や、コリドーにおける結果は、地域別の平均と比べて大きく異なり得る。

リストを提供するという目標に対して、57%となっている。

- リテールにおけるアクセスの目標（100%のエンドユーザーが電子的なクロスボーダー送金・受取のための選択肢を少なくとも1つは有していること）にかかる近似値として、本報告書は、規制された金融機関における取引口座を保有する中堅・中小企業と成人の割合をそれぞれみており、両 KPI はいずれも目標を下回っている（それぞれ 89.8%、76.0%）。

#### レミッタンス<sup>4</sup>

- 200 米ドルのレミッタンスのコストのグローバル平均および世界銀行の Smart Remitter Target (SmaRT) 平均は、それぞれ 6.3%、3.5%であり、いずれも目標の3%を上回っている<sup>5</sup>。
- レミッタンスのコストは、送金額に対する割合であるが、平均的に送金額が増えるほど低下し、500 米ドルのレミッタンスのコストのグローバル平均および SmaRT 平均は、それぞれ 4.3%、2.5%となっている。
- G20 の目標では、全てのレミッタンスのコリドーでコストが 5%を上回らないことを目指している。グローバルにみると、200 米ドル、500 米ドルの送金に要する SmaRT 平均コストが 5%を上回っているコリドーの割合は、それぞれ 20%、13.7%となっている。
- 平均的に、サブサハラ・アフリカ地域が最も高コストな受取側の地域となっており、200 米ドルと 500 米ドルの送金に要する平均コストは、それぞれ 8.4%、6%となっている。南アジアが最も低コストな受取側の地域となっており、200 米ドルと 500 米ドルの送金に要する平均コストは、それぞれ 4.6%、3.1%となっているものの、依然として目標を上回っている。
- グローバルにみると、1 時間以内に受取人に着金し引出可能となるレミッタンスの割合は 53%（目標は 75%）、1 営業日以内の割合は 77%（目標は 100%）となっている。
- 1 時間以内に受取人に着金し引出可能となるサービスの割合をみると、サブサハラ・アフリカ地域が最も高く（59%）、東アジア・太平洋地域が最も低く（46%）なっている。
- 1 日以内に受取人に着金し引出可能となるサービスの割合をみると、ラテンアメリカ・カリブ海地域が最も高く（83%）、東アジア・太平洋地域が最も低く（69%）な

---

<sup>4</sup> レミッタンスは主に先進国から新興国・発展途上国に対して送金されるものであることから、世界銀行の Remittances Prices Worldwide (RPW) データベースは、地域別の平均コストを算出するにあたり、各コリドーの受取国側を対象としている。

<sup>5</sup> SmaRT 指標は、各コリドーにおける 200 米ドル (KPI3) または 500 米ドル (KPI4) 相当の送金に適格なサービスの中で最も安価な 3 つの単純平均として算出されたもの。

っている。

- データセットのうち、98%のレミッタンスサービスが、送金者に課される総手数料および外国為替マージンについての透明性を確保している。
- レミッタンスにおけるアクセスの目標（レミッタンスの送金または受取を希望する個人のうち、銀行口座を保有しない者も含めて、90%超がクロスボーダーの電子的なレミッタンスの手段にアクセスを有すること）の大まかな近似値として、本報告書は、規制された金融機関における取引口座を有する成人の割合をみており、これは76%となっている。

上記の全てのデータは、現在利用可能なデータに基づくおおよその概算である。計算の詳細は、本報告書や別添のメソドロジー・ドキュメントに示されている<sup>6</sup>。

## 次のステップ

本報告書の KPI は、今後もクロスボーダー送金のロードマップの進捗をモニタリングするため、年次でアップデートされる。FSB は、利用可能なデータの改善や、可能な部分についてはデータギャップ解決に向けた取組みを継続する方針である。なお、先に述べた通り、本報告書は、課題の性質、課題解決のために取り得る方法や、KPI のデータが全体の市場トレンドを代表するものであるかどうかについて、ロードマップに関係する官民のステークホルダー間での対話を促すことを目指すものである。

以 上

---

<sup>6</sup> 金融安定理事会「[クロスボーダー送金の目標達成に向けた年次進捗報告書：メソドロジー・ドキュメント](#)」（2023年10月）